

十島村教育委員会だより 令和元年8月号

世わやがトカラ情報

南北160km 「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL 099-227-9771

8月・・・ALTが7人そろいました

十島村教育委員会
教育長 有村 孝一

今からちょうど一年前になります。待ちに待ったALT(英語指導助手)がアメリカとカナダから5人やってきました。そして口之島、中之島、悉石島、小宝島、宝島の5島にそれぞれ赴任していただきました。諏訪之瀬島と平島には口之島のブライアン・シリズさんと中之島のエリック・ジェームズさんに2週間に1度のペースで指導に行ってもらっていました。

それから1年。ついに諏訪之瀬島と平島にもALTがやってきました。諏訪之瀬島には、テイラー・ラ・ヴァルさん(アメリカ)に行ってもらいました。7月31日に鹿児島へ到着し、その日に役場で辞令交付式を行いました。8月2日出しのフェリーで諏訪之瀬島に着任しました。平島には、8月7日に鹿児島に到着したケイレブ・ダナウェイさん(アメリカ)に行ってもらいました。その日のうちに役場で辞令交付式を行ったのですが、台風10号接近のため足止めを食って、13日ぶりに出港したフェリーで着任の運びとなりました。

二人は、辞令交付式のあいさつで、異口同音に「頑張りますので、よろしく願っています。」と、しっかりと日本語で挨拶してくれました。この後、8月19日から23日まで、県庁と(テイラー・ラ・ヴァルさん)KAPIC(県アジア・太平洋農村研修センター)で県によるオリエンテーション及び日本文化についての研修があります。

今回から、鹿児島での諸手続きに中之島のエリック・ジェームズさんと小宝島のジェイク・ブラックバーンさんが通訳をかねて手伝っていただきました。大変助かりました。昨年書きましたが、人口700人弱の島に7人が派遣されたのです。村の要請を受けて、派遣したのは、東京にある自治体国際化協会(通称クレア)というところ。クレアは、ALTの他に、CIR(国際交流員)、SEA(スポーツ国際交流員)の3つの職種の人たちを

受け入れています。現在、世界40か国から約5000人が日本に来ています。

今年度山海留學生として宝島に来ました保本笑彩です。前にいた東京では、なかなか学習内容が身に付かず、成績もどんどん下がっていました。誘惑も多く遊びを優先させていたため、なかなか現状を変えることができず、危機感ばかり募っていました。そんなある時、テレビで十島村に山海留学制度があることを知り、誘惑の少ない離島へ行って、現状を変えようと山海留学に応募しました。応募が多くて留学できなかったらどうしようと不安でしたが、宝島への留学が決まりとても安心しました。母も良かったねと喜んでくれました。

実際に宝島に行くとき里親さんが車で回りながら島の紹介をしてくださり、空気が綺麗で自然が豊かだと思いました。また、島民の方々も私を温かく迎えてくれて嬉しかったです。学校も教室の窓から海が見えて気持ち良く、小・中学生もすぐに仲良くなれました。そんなスタートからあつという間に一学期が過ぎました。テストでも点数がぐんと上がり、通知表でも成績が伸びていました。山海留学を希望して良かったと心から思った瞬間でした。

今後、受験に向けて、さらに学力を伸ばしていきたいです。また、残り少ない中学校生活を充実させていきたいです。

今年度山海留學生として宝島に来ました保本笑彩です。前にいた東京では、なかなか学習内容が身に付かず、成績もどんどん下がっていました。誘惑も多く遊びを優先させていたため、なかなか現状を変えることができず、危機感ばかり募っていました。そんなある時、テレビで十島村に山海留学制度があることを知り、誘惑の少ない離島へ行って、現状を変えようと山海留学に応募しました。応募が多くて留学できなかったらどうしようと不安でしたが、宝島への留学が決まりとても安心しました。母も良かったねと喜んでくれました。

実際に宝島に行くとき里親さんが車で回りながら島の紹介をしてくださり、空気が綺麗で自然が豊かだと思いました。また、島民の方々も私を温かく迎えてくれて嬉しかったです。学校も教室の窓から海が見えて気持ち良く、小・中学生もすぐに仲良くなれました。そんなスタートからあつという間に一学期が過ぎました。テストでも点数がぐんと上がり、通知表でも成績が伸びていました。山海留学を希望して良かったと心から思った瞬間でした。

今後、受験に向けて、さらに学力を伸ばしていきたいです。また、残り少ない中学校生活を充実させていきたいです。

ついに、7島全部にネイティブスピーカーによる英語学習の環境が整うこととなりました。この事により、来年度からの学校での英語学習がスムーズに行われることはもちろんの事、英語を学べるので、山海留学をしてみたいという子どももいろいろあると思います。

改めて、諏訪之瀬島・平島の皆さん方には、2人を温かく迎えていただくとありがたいです。また、5島の皆様方には、これまで以上にALTをよろしく願っています。

願わくば、ALTがそろいましたので、高齢者の皆さん方まで、いろいろな機会に英語が聞かれ、英語の響きあう村にならんことを切に期待するものです。そのためには、お互いが恥ずかしがらずに、積極的に英語を使ってみることです。

昨年も言いましたが、皆さん「レッツ トライスピーク イングリッシュ」いかがですか。

十島村「海外派遣ホームステイ事業」 in Australia

第8回となる海外でのホームステイを終え、派遣生5名が帰国しました。

8月9日(金)に出発日し、2週間のホームステイを終え、成田空港への帰国は8月22日(木)で、鹿児島到着は23日(金)、同日午後4時30分から役場会議室で報告会を開催しました。

本年度の派遣生は、次の5名でした。
永吉美遥さん(中3) 菅野美沙希さん(中3)
久永ひかりさん(中2) 下川陽翔くん(中2)
福島嘉津穂くん(中2)

- 【報告会での様子】(派遣生の発表から)
- ・ 日が経つにつれて自分から話しかけることができるようになった。
 - ・ ホストファミリーはとても親切で、話していることを一生懸命に理解しようとしてくれた。
 - ・ ホストファミリーが買い物や公園、映画に連れていってくれた。一番の思い出は、一緒に和食を作ったこと。
 - ・ みんなとてもフレンドリーで、いろいろな所に連れていってもらった。
 - ・ 最初はyesやnoばかりだったが、だんだん自分の気持ちを表せるようになった。

※ 帰国後、一層たくましくなった姿に、この十島村の海外派遣ホームステイ事業の成果を見た気がしました。



シリーズ 新聞に投稿
(令和元年8月6日南日本新聞「若い目」掲載)
小宝島中1年 安本 風香

4月に親元を離れて、山海留学しました。あつという間の1学期でした。初めての教科の英語は、単語や英文が難しいと感じていました。でも家で復習することで、目標の点数をテストで超えられてよかったです。小宝島の自然の中で運動をすることも魅力の一つでした。一輪車に乗れるようになったよかったです。次は伝統の島1周の2キロ走破にもチャレンジしたいです。秘密の場所の井戸水を使った島豆腐作りにも挑戦しました。ほんのり潮腐作りに挑戦して、とってもおいしいかったです。夏休みは久しぶりに指宿に帰省します。日頃一緒に生活してない分、自分から進んでお母さんと一緒に掃除や洗濯をして家族の役に立ちたいです。友達と遊んだり、買い物に行ったりして心の栄養をたくさん蓄えたいです。



(令和元年8月24日 南日本新聞「ひろば」掲載)
70歳、島暮らしにチャレンジ 竹下和子(十島村)

十島村に来て5カ月になります。親をみどり、念願だった島暮らしをかなえるために、小宝島に移住しました。十二時間の船旅を経て着いた所は、常夏の素晴らしい島でした。海はどこまでも続くコバルトブルー。ハイビスカスの花が咲き乱れ、珍しいチョウも飛び交っています。島全体がサンゴ礁でできているので、奇岩もそびえ立ち、島は周囲4キロ、四十十分くらいで歩けるくらいです。夫はビニールハウスを借りて野菜作りを励んでいます。村営船「フェリー」として、出入港する時には、離岸作業も手伝っています。その中で島の人の親交を深め、日々楽しく過ごしています。私は島の診療所で看護師として働き、与えられた仕事の重大さを感じつつ、精進の毎日です。つながりの大切さ、共存共栄で島暮らしが成り立っていることを感じます。湯泊温泉につかりながら満天の星空を見上げる時、何物にも代え難い喜びを感じます。いつまでもこの島で生活できるか分かりませんが、いつまでも小宝島で過ごしたいと思いません。健康で一日一日大切にも頑張りたいと思います。

女性団体等研修視察

7月25日、26日に十島村女性団体(7名)の研修視察を行いました。

25日(木)は、南九州市地域女性団体連絡協議会の方々との交流研修を行い、その後、知覧特攻平和会館を見学しました。

26日は、時遊館COCCOはしむれを見学した後、指宿市地域女性団体連絡協議会の方々との交流研修を行いました。

2つの団体との交流研修では、女性団体としての共通の課題や今後の活動のあり方などがお互いに意見交換を行うことができました。改めて地域作りにも果敢と女性の役割や自分自身の生き方を見つめ直す機会となりました。



【宝島小・中学校からのメッセージ】
教諭 廣瀬 かおり

宝島に来て、2年目の春を迎えた。1年目は5・6年学級5年生2名・6年生1名の3名の学級担任。2年目は、1・2年学級1年生3名・2年生3名の6名の学級だ。全校児童19名であるから、実に約3分の1の人数が在籍している学級ということになる。

前任校は大規模校で、最後の担任学級は34名だった。今、この6名と毎日過ごしていると、『極小規模校』のよさが見えてくる。

まず、一人一人に目が行き届く。子どもたちの学習や活動の見届けがすぐにその場でできる。課題確認や作品掲示に時間も手もかけられる。宝島小・中学校で大切にしているキャッチフレーズ『見つめる・寄り添う・関わる』ことが確実にできる。

私にとって宝島は初めての複式指導であった。初めは指導法に悩むこともあったが、極少人数のよさを大切にして「個に応じた指導とは？」を深く考える転機となった。

これまで一人の児童に注いできた指導と愛情を、今は、一人につき6倍のそれを注ぐことができる。いや、『できる』ではなく『したい』と思える。そんな環境で仕事ができることを幸せに感じている。

『教職員仲間であるあなた』への私からのメッセージ

自分の島だけでは、このような思いは持てませんでした。十島村全ての島でのみなさんとの出会いと繋がりが、今の私を支えています。いつかまたどこかで、ご縁のあることを願っています。

シリーズ・・・十島村で学ぶ
宝島中学校 3年 保本 笑彩

宝島に来て今年度山海留學生として宝島に来ました保本笑彩です。前にいた東京では、なかなか学習内容が身に付かず、成績もどんどん下がっていました。誘惑も多く遊びを優先させていたため、なかなか現状を変えることができず、危機感ばかり募っていました。そんなある時、テレビで十島村に山海留学制度があることを知り、誘惑の少ない離島へ行って、現状を変えようと山海留学に応募しました。応募が多くて留学できなかったらどうしようと不安でしたが、宝島への留学が決まりとても安心しました。母も良かったねと喜んでくれました。

実際に宝島に行くとき里親さんが車で回りながら島の紹介をしてくださり、空気が綺麗で自然が豊かだと思いました。また、島民の方々も私を温かく迎えてくれて嬉しかったです。学校も教室の窓から海が見えて気持ち良く、小・中学生もすぐに仲良くなれました。そんなスタートからあつという間に一学期が過ぎました。テストでも点数がぐんと上がり、通知表でも成績が伸びていました。山海留学を希望して良かったと心から思った瞬間でした。

今後、受験に向けて、さらに学力を伸ばしていきたいです。また、残り少ない中学校生活を充実させていきたいです。

実際に宝島に行くとき里親さんが車で回りながら島の紹介をしてくださり、空気が綺麗で自然が豊かだと思いました。また、島民の方々も私を温かく迎えてくれて嬉しかったです。学校も教室の窓から海が見えて気持ち良く、小・中学生もすぐに仲良くなれました。そんなスタートからあつという間に一学期が過ぎました。テストでも点数がぐんと上がり、通知表でも成績が伸びていました。山海留学を希望して良かったと心から思った瞬間でした。

今後、受験に向けて、さらに学力を伸ばしていきたいです。また、残り少ない中学校生活を充実させていきたいです。

